

# 社会的事象や事実を、複数の観点から見たり考えたりする力の育成

～第4学年 社会科 「生活を支える電気」の実践を通して～

佐渡市立後山小学校 椎井 慎太郎

## 1 はじめに

小学校学習指導要領・社会編の各学年にわたる内容の取扱いと指導上の配慮事項として「社会的事象を多面的、総合的にとらえ公正に判断することができるようにする」ことが示されている。

私は、日々の社会科授業を通して、事象や事実を多面的に見たり考えたりする力を育てることを目指している。なぜなら、多様な観点から考えることは、物事をとらえ対処する際に大切な役割を果たすとともに、一面的な判断にとらわれず、公正な判断につながっていくと考えるからである。そのために、従来の指導法を見直し、以下のように言語活動を工夫することで「考える力」を高めようと実践を試みた。

## 2 実践の概要

### (1) 育てたい「考える力」

社会的事象や事実を、複数の観点から見たり考えたりする力

### (2) 手立て

#### 〈従来の指導法〉

- ①自分の考えをつくる
- ②全体での検討
- ③まとめ・振り返り  
(自分の考えの見直し)



社会的事象や事実を、複数の観点から見たり考えたりする力

★この指導法では、自分の考えを見直す場が1回しかないため、他者の見方や考え方にふれたり、自分の考えを見直したりする機会が少ない。そのため、複数の観点から見たり考えたりする力の高まりは見られても、その高まりは弱いと考える。

#### 〈本実践の手立て〉

- ①自分の考えをつくる
- ②ペアでの検討 (付箋)
- ③自分の考えの見直し
- ④全体での検討 (キャッチフレーズ・優先順位)
- ⑤自分の考えの見直し



社会的事象や事実を、複数の観点から見たり考えたりする力

★ペアと全体という2段階で検討させることによって、他者の見方や考え方にふれたり、自分の考えを見直したりする機会を十分に設ける。

### 【「考える力」を育てるための言語活動の工夫】

#### ①ペアで考えを伝え合い、よいところや改善点を明らかにさせる

- ・各自の考えを出し合い、それをもとにペアで話し合う。各自の考えを交流したり吟味したりすることで、自分の考えについて確信をもったり、修正したりする。
- ・友達の意見を視覚化させるために付箋紙を用意し、付箋紙を付けながら話し合う。一方の色に改善点、もう一方の色には友達の考えのよかったところを書くようにする。

#### ②ペア同士の検討を基に、自分の考えを見直し改善させる

→**評価1**自分の考えを、より複数の観点から見たり考えたりしているかを評価する。

#### ③全体場で互いの考えを伝え合わせ、自らの考えや集団の考えを発展させる

- ・自分の考えの視点をはっきりさせるために、考えをまとめたキャッチフレーズを作成する。
- ・キャッチフレーズを基に、それぞれの考えの視点が見える形で整理し、話し合いをする。
- ・出された考えに優先順位をつけさせることによって、自らの考えや集団の考えを発展させる。

#### ④全体場での検討を基に、自分の考えをもう一度見直し改善させる

→**評価2**自分の考えを、より複数の観点から見たり考えたりしているかを評価する。

(3) 指導の実際

時間	第4学年社会科「生活を支える電気」 主な学習活動（全18時間）	言語活動
1		
15	ペア同士でマイベスト節電を伝え合い、よいところや改善点を明らかにする活動を通して、自分の考えを見直し改善することができる。また、マイベスト節電を1つ決定する。	① ②
16	「ベスト節電を学校ホームページで発信しよう」という課題に向けて、自分が考えたマイベスト節電を、友達の見方や考え方にふれることを通して、もう一度見直したり改善したりすることができる。	③ ④

①ペアで考えを伝え合い、よいところや改善点を明らかにさせる

15時間目では、ペア同士でマイベスト節電を伝え合い、よいところや改善点を明らかにする言語活動を設定した。「ベスト節電を学校ホームページで発信しよう」という課題に向けて、一人8枚程度の付箋を書くことができた。

抽出児のA児は、B児のマイベスト節電に対して、「大人から子どもまでできるところがいいです。」といった肯定的な意見や、「(テレビをこまめに消すことよりも) コンセントをぬく方がいいと思います。」といった改善点を示す意見を書くことができた。一方、B児からは、「(電化製品のコンセントをぬくことは) 誰でもかんたんにできていいですね。」という肯定的な意見をもらい、自分が選んだマイベスト節電の理由を補強することができた。



②全体の場で互いの考えを伝え合わせ、自らの考えや集団の考えを発展させる

15時間目における検討を経て、子どもはマイベスト節電を1つに絞っている。16時間目では、一人一人が提案するマイベスト節電に優先順位をつけさせることによって、それぞれの考えを比較させようと考えた。そのために、「この中からどの節電方法を1番目に訴えたいか。」と問うた。複数の中から1つを選び出していく過程で他の複数の見方や考え方にふれたり、自分の考えたマイベスト節電を見直したりし、より複数の観点からマイベスト節電を改善していくと考えたからである。

A児は、友達のことを聞いたり、提示された新たな資料を見たりしながら、自分が提案するマイベスト節電をよりよいものへと変更した。一方、節電方法を変更せず、理由付けを補強する子どもも複数いた。

3 成果と課題

(1) 成果

○社会的事象や事実を、複数の観点から見たり考えたりする力の高まりが見られた

A児の記述シートの変容から、他者の見方や考え方にふれ、自分の考えを複数の観点から見直していることが分かる。特に最終決定の場面では、保護者のアンケート結果を踏まえて、節電効果のことを考えるなど、複数の観点から自分の考えを見直し、マイベスト節電を決定している。このことから、ペアと全体という2段階の言語活動を設定したことは、目指す力を高めるために有効であったと言える。

【A児の記述の変容】

節電方法	長時間使用しない電化製品は、コンセントから抜いておく	カーテンを厚くして部屋を温める
はじめ理由	多くのキャッチフレーズは、「だれでもできるよかんたん節電」と「効果はあるよ身近な節電」です。選んだ理由は、コンセントを抜けば、抜いておいた時間だけ節電できるからです。	多くのキャッチフレーズは、「だれでもできるよかんたん節電」と「無理なくできるよかんたん節電」です。選んだ理由は、ストローを使わなければ節電できるからです。
ペア検討後理由	長時間使用しない電化製品は、コンセントを抜いておく。	長時間使用しない電化製品は、コンセントを抜いておく。
全体検討後理由	キャッチフレーズは、「だれでもできるよかんたん節電」と「効果はあるよ身近な節電」です。選んだ理由は、おうちの人のアンケートでも1位だったし、だれでもできかんたんにできる節電方法だからです。また、6%の節電効果もあるからいいと思いました。	照明をできるだけ消す。

(2) 課題

本実践で取り組んだ言語活動の工夫を、他の学年や他の単元でも実践する。例えば、6年生の歴史や政治の単元で実践を試み、その有効性を考察するとともに、吟味・修正を行っていきたい。